

＝平成30年度早川南小学校だより＝

# はるき



平成31年3月12日

No.48

校長 坂野修一

## 来年度に向けて



10日(日)の中部横断自動車道の部分開通から2日が経ちました。「こんなにも車の流れが変わるのか!」というくらいに国道52号の渋滞が緩和され、渋滞3名所の「西島」「切石」「飯富」もスイスイの昨日。今日は、中部横断自動車道の無料区間を通して通勤したら、さらに時間短縮!我が家を出発する時刻も15分近く遅くなれそうです。朝の15分はありがたいです。

さて、2020年から新しい学習指導要領に則って教育活動が行われるわけですが、現行の学習指導要領での最後となる、2019年度の教育課程の準備をこの間進めてきました。

教育課程とは、その学校で行われる各学年の教科や道徳はもとより、全校集会や学級活動などの特別活動、キャリア教育や福祉環境教育に至るまで、その目標並びにいつどのような取り組みを行うのか、学校で行われている全ての教育活動の計画について記載されているものです。もちろん、本校の特色ある教育である吹奏楽活動の計画も記載されています。これらは、学習指導要領に基づき、子どもや地域の実態を加味して作成されます。

算数や国語などは、日本全国、北は北海道から南は九州沖縄まで、どこの学校で勉強しても教わる内容は変わらないでしょう。しかし、社会や総合的な学習などを筆頭に、子どもや地域の実態に応じて教える内容が変わってくる教科もあります。どんな時期に、どんな内容で、どのように教えようかと考えるのが教育課程づくりなんです。2019年度は教科書が変わらないので、教育課程に大きな変更はないのですが、2020年度は教科書が変わるので、来年の冬は大忙しの学校現場になります。

とはいえ、来年度は移行期間といって、わずかではありますが教えるべき内容が上の学年にいたり下の学年にいたりするものがあるので、そのチェックが重要なのです。それをしないと、教わるべき内容を教わらないで小学校を卒業してしまうことになるからです。

例えば、「速さ」の勉強は、これまで6年生で勉強しましたが、2019年度は5年生で勉強します。5年生で勉強しないと、6年生になってからの教科書には「速さ」の内容がないので、「速さ」の勉強をしないで中学校に進学してしまうことになります。

また、昨年12月、保護者の皆様や子どもたちに「早川南小の教育に関するアンケート」を行いました。その結果を分析考察し、これからの本校の教育に生かす必要があります。過日、その分析考察したものを学校評議員に見ていただき会議を行いました。その結果については近日中にお知らせするところですが、これらのことも、2019年度の教育課程にも生かさなければなりません。

2019年度の教育課程に関しては、このように粛々と校内議論で進めていますが、2020年度の教育課程はそうはいきません。外国語や外国語活動の授業時数が増え、学校はさらにこれまで以上に過密になってきます。授業時数の確保のため、2020年度以降の行事の見直しは必須となってきますので、保護者のみなさまのご意見も伺いながら検討を進める2019年度になるはずですので、どうぞよろしくお願いいたします。



早川中学校の卒業式に午前中出席してきました。早川中学校の生徒たちが素晴らしく、その立ち振る舞い、呼びかけ、歌声、その全てに感動し、涙を流して帰校しました。その感動を午後の練習で子どもたちに伝え、早川南小の卒業式も素晴らしい卒業式になるよう子どもたちを励ましたところ。卒業式までおよそあと1週間!みんなで頑張っていきたいと思えます。保護者の皆様、お子様への励ましをお願いいたします。